

災害からの回復とネコギギの復活―鈴鹿川水系の環境調査VIII-

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2011-08-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松永, 航平, 掘, 智之, 藤田, 功介, 山中, 裕史, 井分, 達郎, 堀口, 駿一, 西飯, 信一郎, 大久保, 宏美 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/3734

高校生・学生口演 4

災害からの回復とネコギギの復活―鈴鹿川水系の環境調査Ⅷ―

○松永航平¹・掘智之¹・藤田功介¹・山中裕史¹・井分達郎¹・堀口駿一¹・西飯信一郎²・大久保宏美²

¹鈴鹿高等学校自然科学部, ²顧問,

鈴鹿川水系において、2008 年 8 月に私たちが発見したネコギギの高密度生息地（区間 1）は、2008 年 9 月の集中豪雨により大打撃を受けた。今回は、区間 1 の環境とネコギギの生息状況が 2008 年から 2010 年の 3 年間でどのように変化したかを報告する。

ネコギギの分布を調べたところ、集中豪雨以降の成魚の個体数は減少したままではあるが、地理的な分布の様式については集中豪雨以前とほぼ同様になった。さらに、当歳魚 14 個体を目視し、区間 1 での繁殖を 2 年ぶりに確認することができた。

また、区間 1 の物理的条件（河床の様子、水深、流速）をもとに好適生息区画を抽出し、2009 年と 2010 年の間での環境の変化について考察したところ、好適とされる物理的条件に該当する区画が増加し、土砂災害以前の環境に戻りつつあることが分かった。

2008 年の集中豪雨をうけ、亀山市ネコギギ保護指導委員会は「ネコギギを避難させる」「土砂を取り除く」「見守る」のうち「見守る」を選択し、今回の私たちの研究からもその選択が正しかったという結論を得た。今回の調査をもとにした「見守ることも有効な手段である」という結論は、今後のネコギギ保護活動の進め方を考える上での提言となるだろう。また、同委員会（5 ヵ年計画）は 2011 年で活動を停止する予定になっており、2012 年からも私たちは引き続き責任をもって調査に臨む必要がある。